法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-12

HOSEIミュージアム年報　第2号

(出版者 / Publisher)
HOSEIミュージアム
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
HOSEIミュージアム紀要 / BULLETIN OF HOSEI UNIVERSITY MUSEUM
(巻 / Volume)
2
(開始ページ / Start Page)
69
(終了ページ / End Page)
113
(発行年 / Year)
2022-03-09

2021 年度 HOSEI ミュージアムの活動

HOSEI ミュージアムは 2020 年 4 月の開設以来、コロナ禍による制約と制限を受けながら、今年度も、ミュージアム・サテライトの設置や各種展示の開催など様々な活動を展開した。

本ミュージアムは、本学各キャンパスの空間とデジタル空間を広くネットワーク化する場として、順次構築を続けており、2021 年 10 月に、本ミュージアム初のサテライト施設である「ミュージアム・サテライト小金井（STEAM）」を設置した。同サテライトは、本学の理工系教育・研究に焦点をあて、その豊かな歴史と個性を伝えていくことを目的に、企画展示、研究キーワード展示、モニタ展示、柱グラフィックから構成されている。今後は同サテライト独自の企画展示等を展開していく。

翌 11 月には市ケ谷キャンパス内に「ミュージアム・サテライト市ケ谷（外濠、BT）」を設置した。外濠、BT いずれも、既存の展示スペースを改修したもので、新たに共通のサイングラフィックを設置することによって、同じ市ケ谷キャンパス内に位置するミュージアム・コア（2020 年 4 月開設。九段北校舎 1 階）と展示空間としての一体性を高め、新規の展示グラフィックの設置並びに展示設備の改修等も行われた。

なお、今後はサテライト多摩の設置が予定されており、その検討作業が進みつつある。

展示活動としては、コロナ禍により、延期されていた HOSEI ミュージアム開設記念特別展示「都市と大学―法政大学から東京を視る」（2021 年 3 ～ 4 月）、春学期テーマ展示「HOSEI スポーツの原点 II 期」（同 5 ～ 8 月）、江戸東京研究センター（EToS）による特別展示「< 人・場所・物語 >―“Intangible” なもので継承する江戸東京のアイデンティティ」（同 9 ～ 10 月）、そしてサテライト小金井の開設と連動した秋学期テーマ展示「法政理工系のサステナビリティ研究」（同 10 月～ 2022 年 4 月予定）を開催した。特別展示ではいずれも、展示に関連するシンポジウムがオンラインにて併催された。

オンライン上でのミュージアムの取り組みとしては、YouTube チャンネルの開設が挙げられる。来年度以降、HOSEI ミュージアム開設準備募金による映像コンテンツの制作も予定されており、今後順次、新たな動画を配信し、デジタルアーカイブとともにオンライン上のコンテンツについても、より一層の充実を図っていく。

〈2021 年度における HOSEI ミュージアムの主な活動〉

2021 年 3 月 8 日～ 4 月 23 日　HOSEI ミュージアム開設記念特別展示「都市と大学－法政大学から東京を視る」開催

2021 年 3 月 20 日　併催シンポジウム「法政大学・関西大学・明治大学 三大学連携事業　都市と大学－三大学の源流」開催。シンポジウム開催と同時に HOSEI ミュージアム YouTube チャンネル開設。

2021 年 5 月 11 日～ 8 月 27 日　2021 年度春学期テーマ展示「HOSEI スポーツの原点　II 期」開催

2021 年 9 月 7 日～ 10 月 3 日　江戸東京研究センター（EToS）企画特別展示「< 人・場所・物語 >―“Intangible” なもので継承する江戸東京のアイデンティティ」開催

2021 年 10 月 15 日～ 2022 年 4 月（予定）　2021 年度秋学期テーマ展示「法政理工系のサステナビリティ研究」開催

2021 年 10 月 19 日　ミュージアム・サテライト小金井（STEAM）設置（お披露目会開催）

2021 年 11 月　ミュージアム・サテライト市ケ谷（外濠、BT）設置

2022 年 3 月　『HOSEI ミュージアム紀要』第 2 号発行

サテライト小金井（STEAM）の設置

1．概要

サテライト小金井（STEAM）は、2021 年 10 月 19 日に関係者によるお披露目会を開催し、同日開設した。

HOSEI ミュージアムは、ネットワーク型ミュージアムとして、本学 3 キャンパスにサテライトを設置し、ミュージアム・コアと連動しながら、各キャンパスの個性を伝える構想をもっている。サテライト小金井は、法政大学の理工系教育・研究の歴史と個性を伝える場として設置された。

本サテライトでは、最も重視する参観者を本学理工系学生と設定した。本学で学びながら、本学理工系教育・研究の歴史や、所属の学部・学科以外の教育・研究について、学生たちは必ずしも十分知り得ているとは限らない。本サテライトは、そうした学生が知見を広げる場になることをめざし、あえて学部・学科別の構成はとらず、全体として学部横断型のつくりにしている。

サテライト名称には、STEAM（Science, Technology, Engineering, Arts and Mathematics）という愛称を付すことで、本サテライトが対象とする、人文系を包含した理工系の世界を表現している。

全景写真

以下、本サテライトの構成に沿って、その概要を説明する。

2．企画展示ゾーン

企画展示ゾーンでは、法政理工系の教育・研究の歴史や成果を表す展示を随時開催する。

開設時現在は「法政理工系の軌跡」と題した展示を行っている。この展示は今後、他の企画展示が開

催されていない期間の常設展示になる。展示スペースの制約を補うため、「もっと知りたい人はこちらへ」という QR コードを付けて、法政理工系の興味深い歴史エピソードに誘導している。

3. 実物展示

実物展示スペースとして、企画展示壁面前に、2 つの小型展示ケースが置かれている。

開設時現在は、小金井キャンパス竣工時（1964 年）の雑誌記事（雑誌『新建築』）と、麻布校舎時代を伝える卒業生の資料を展示している。本サテライトでは他に、収納エリアから取り出して使用できる「展示用台座」が用意されており、実物展示中心の企画で利用することができる。

4. 法政理工系の研究キーワード展示

理工系 4 学部全専任教員の研究キーワードのパネル展示。学部横断的という全体コンセプトから、コアとなるキーワードとして、「人間」「環境」「生命」「もの」「情報」「数理」という 6 つの大項目を定め、その周囲に全キーワードが配置されている。ただし配置はあえて固定化せず、参観者がその場で思考し、議論しながら動かせる「ハンズ・オン展示」としている。

5. モニタ展示

本学内で制作されてきた法政理工系の教育・研究を伝える動画を集約して、モニタで映写する。

ゆっくり流れるサムネイルから、ランダムに時々、特定の映像にフォーカスして映写されていくつくりとなっており、今後、新たな映像も随時加えていく予定である。

6. 柱グラフィック

HOSEI ミュージアムのご挨拶や説明、本サテライトの趣旨、法政理工系関連年表などのグラフィックを、既存の２本の柱上に、オリジナル面を活かしてシルクスクリーン印刷したグラフィック展示。

7. サテライト関連エリア

サテライトに近接した壁面に、初代工学部長の加茂正雄教授、並びに、小金井キャンパス開設決定時の有沢広巳総長の胸像が置かれており、胸像の上には、小金井キャンパス開設時の谷川徹三総長の論語の書（「学而時習之　不亦説乎」 学びて 時に これを習う　また よろこばしからずや）が掲げられている。法政理工系の歴史において、小金井キャンパスの開設が有した意味は非常に大きく、このエリアも本サテライトの外延と位置づけ、解説パネルを設置した。

サテライト市ケ谷（外濠、BT）の設置

1. 概要

「ミュージアム･サテライト市ケ谷（外濠、BT）」は 2021 年 11 月に設置された。外濠、BT いずれも、既存の展示スペースを改修したもので、新たに共通のサイングラフィックを設置することによって、同じ市ケ谷キャンパス内に位置するミュージアム・コア（2020 年 4 月開設。九段北校舎 1 階）と展示空間としての一体性を高め、新規の展示グラフィックの設置並びに展示設備の改修等も行われた。同サテライトは、今後、特別展示・テーマ展示などの展示企画の会場としても活用される。

2. サテライト市ケ谷（外濠）

サテライト市ケ谷（外濠）は法政大学市ケ谷キャンパス外濠校舎 6 階展示スペースを改修し、設置された。

改修により、サイングラフィックが設置され、ウォールケース内の照明は従来の蛍光灯から展示資料の劣化の恐れが少ない LED 照明に変更された。

サテライト市ケ谷（外濠）の常設展示では、HOSEI ミュージアム開設記念特別展示「都市と大学―法政大学から東京を視る」（2021 年 3 ～ 4 月開催）にて作成されたパネル計 20 枚が展示されている。

3. サテライト市ケ谷（BT）

サテライト市ケ谷（BT）は法政大学市ケ谷キャンパスボアソナード・タワー 26 階の展示スペースを改修し、設置された。

改修により、ウォールケースの内装の貼り替えとガラス面の撤去、LED 照明等への変更が行われ、ウォールケースの側面にはサイングラフィックが、ウォールケース内には常設グラフィックとして、「法政大学の校舎・キャンパスの広がり」が設置された。常設グラフィックは、1880 年の創立から現在まで、法政大学が地理的にどのように広がっていったのか、校舎等の写真と地図を素材としながら展示として表したもので、窓面を正面にして左側ウォールケースには戦前編（1880 年から 1945 年まで）、右側ウォールケースには戦後編（1945 年から現在まで）が展示されている。同グラフィックでは、戦前期においては、神田界隈からはじまり、市ケ谷、川崎、戦後においては、津田沼、石岡、麻布、小金井、多摩と、首都圏各地に校舎・キャンパスを拡大していった本学の歩みを一望することができる。

また、既存の展示ケース 1 台とスカイホール（能舞台設置時）模型を撤去し、市ケ谷キャンパスの模型をボアソナード・タワー 1 階に移設した。

開設記念特別展示「都市と大学―法政大学から東京を視る」

1. 展示概要

HOSEI ミュージアム開設（2020 年 4 月）を記念し、開設記念特別展示「都市と大学―法政大学から東京を視る」が開催された。

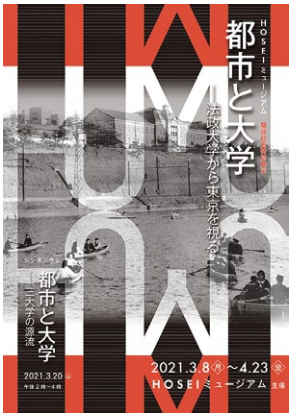
当初の予定では、本ミュージアムの開設から約半年後の 2020 年 9 月から 10 月の開催を予定していたが、コロナ禍により、会期を延期し、2021 年 3 月から 4 月にかけて開催された。

会期：2021 年 3 月 8 日～4 月 23 日

会場：第 1 会場 HOSEI ミュージアム ミュージアム・コア

第 2 会場 ボアソナード・タワー 14 階博物館展示室

第 3 会場 外濠校舎 6 階展示スペース



展示ポスター

2. 展示内容

同展示は、「都市空間として発展・変容していった近現代の東京の姿を法政大学の歴史のなかから捉え直すとともに、東京という空間の観点から本学の歴史を再考」する、という展示趣旨のもと、法政大学市ケ谷キャンパス内の各種展示スペースを活用し、開催された。

第 1 会場（ミュージアム・コア）では展示の全体像が紹介され、第 2 会場（博物館展示室）では大学昇格の時代に焦点を当て、当時の学生と教員に関する実物資料が展示された。第 3 会場（外濠校舎 6 階展示スペース）では約 150 年にわたる法政大学と東京との関係性が全 4 章構成―第 1 章 東京法学社と「東京」、第 2 章 九段の法律学校、第 3 章 法政大学の大学昇格と「大東京」の形成、第 4 章 戦後法政大学のあゆみと 3 キャンパス時代の幕開け―で展示された。

なお、詳細な展示内容については、『展示解説　開設記念特別展示「都市と大学－法政大学から東京を視る」』（2021 年 3 月発行）を参照されたい。

第 1 会場

第 2 会場

第 3 会場

3. 関連イベント

同展示の開催を記念し、併催シンポジウム「法政大学・関西大学・明治大学 三大学連携事業　都市と大学―三大学の源流」が実施された。詳細は以下の通りである。

趣旨：三大学（法政大学、明治大学、関西大学）の法律学校としての創設期、総合大学への展開期に焦点をあて、江戸から東京、なにわから大阪への都市形成と、法律学校・大学の形成の密接不可分な関わりについて、論じ合う。

日時：2021 年 3 月 20 日（土）午後 2 時〜 4 時

開催方式：オンライン配信方式　YouTube ライブ配信（チャット機能なし、Zoom 併用）

配信会場：HOSEI ミュージアム ミュージアム・コア、関西大学、明治大学

プログラム：開催ご挨拶　田中優子（法政大学総長［当時］）・前田裕（関西大学学長）・大六野耕作（明治大学学長）

報告 1　「3 人の若者　東京に法律学校をつくる」
田中優子（法政大学総長［当時］・HOSEI ミュージアム館長）

報告 2　「大阪に文科大学を－関西大学・なにわ大阪・千里山」
薮田貫（関西大学名誉教授）

ブレイク　HOSEI ミュージアム開設記念特別展示のご紹介（動画）

ディスカッション　「‘江戸となにわ’から‘東京と大阪’へ」
パネリスト：田中優子・薮田貫・古俣達郎（HOSEI ミュージアム所員）
コーディネーター：鈴木智道（法政大学准教授・大学史委員会）

閉会ご挨拶　芝井敬司（関西大学理事長）、廣瀬克哉（法政大学次期総長［現・総長］）

同シンポジウムの終了後、シンポジウムの模様が HOSEI ミュージアムの YouTube チャンネルにて期間限定で配信され（2021 年 9 月 30 日まで）、シンポジウムで上映された展示紹介映像については、同 YouTube チャンネルで現在も配信中である。

ディスカッションの様子

YouTube チャンネル

図録公開ページ

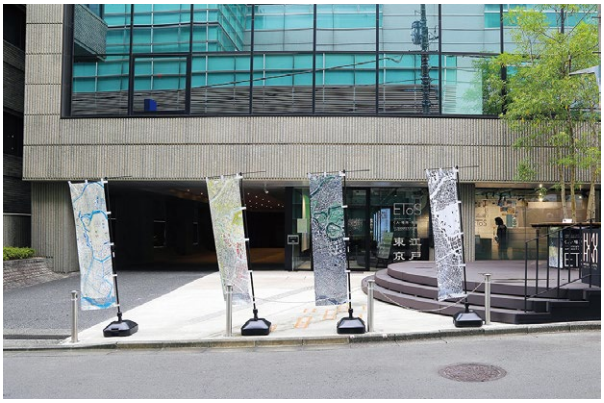
（文責：古俣達郎）

HOSEI ミュージアム特別展・江戸東京研究センター「〈人・場所・物語〉——“Intangible” なもので継承する江戸東京のアイデンティティ」（会期：2021 年 9 月 7 日～ 10 月 3 日）

現代の東京を考えるために歴史的に江戸との連続性を視野に入れることの意味。それはいまの東京が拠ってたつ基盤を見さだめ、過去から現代につながるものを探り、この都市のアイデンティティとは何かを認識することでより深く正しい理解を得ようとすることである。法政大学江戸東京研究センターでは、2017 年度末の設立以来、文理の壁を越えて江戸東京とは何かというこの問題を追求してきた。この「壁」をごく簡単に説明するなら、都市環境や建築史といった理系の知の江戸東京へのアプローチが現代の課題解決につながるヒントを過去に求めるのに対し、歴史学、地理学、文学、文化研究のような文系は江戸東京のそれぞれの時代の事象そのものに迫ろうとするという点で大きく異なる。当センターは、こうした違いを乗りこえ、相互に補完するように有機的に連携し、その知をいまに活かしていくための模索を続けている。

今回の展示では、そうした問題意識のもとに、古代から現代までをパースペクティブに見据えながら、幾度にもわたる都市と社会の変貌を経験してきた江戸東京にあって、それでも変わらない地形や自然、記憶、物語といったものを、いわゆる可視的なモニュメントとは異なる見えないもの、つまり “Intangible” な遺産であると位置づけ、これまでの研究成果を展示した。

Site A では古代から現代を貫く〈水都〉としての江戸東京、SiteB では近世から近代に受け継がれた原風景としての水辺、SiteC では近現代に息づく江戸東京のアイデンティティ、SiteD では現代から近未来を見据えた人がつながるコモンとしての街づくりをテーマとした。期間中の来場者数は 652 名を数え、ミュージアム開設以来最大となった（図録 https://edotokyo.hosei.ac.jp/application/files/1516/3150/5462/etos_catalogue.pdf）。



EToS 特別展

Site A

Site B

Site C

Site D

写真：SHIMADA Yusuke ／ apgm*
（EToS 特別展、Site A・C・D）
KURYU Haruka（Site B）

また、この特別展と並行して、9 月 19 日と 9 月 26 日の二週連続にわたってシンポジウム「EToS がつくる新・江戸東京研究の世界」をオンラインで開催し、「都市をつくるのは誰か―定住者と流入者・来訪者、それぞれの役割とまなざし」、「都市の表象文化『名所』から『聖地』へ」、「コモンズを再生する東京 2021」の各セッションに続き、最後に「江戸東京研究の可能性をさぐる」と題して、田中優子、陣内秀信の両氏による対談をおこなった。EToS 独自の新たな江戸東京研究の可能性を所属する研究員ら全員で探った二日間は、実に刺激的で充実した内容となった。今回の特別展とシンポジウムを通して、単なる歴史だけでなく、これからの東京、そして日本の価値観の転換と行く先とを考える視点が見えてきた。

（江戸東京研究センター長　高村雅彦）

図録公開ページ

＜2021 年度春学期テーマ展示＞

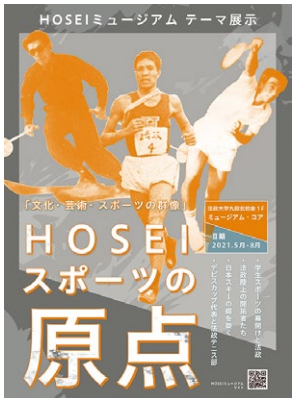
HOSEI スポーツの原点　II 期
The origin of sports activities at Hosei University II

会期

2021 年 5 月 11 日～8 月 27 日

＊当初、2020 年度秋学期の開催を予定していたが、新型コロナ感染症拡大に伴い、会期を変更した。

＊ 2020 年 6 月 22 日～ 2021 年 1 月 29 日開催の I 期については、『HOSEI ミュージアム紀要』創刊号（2021 年 3 月）にて報告済。



概要

東京でのオリンピック･パラリンピック開催を受け（のち延期決定）、2020 年のテーマ展示では、「文化･芸術･スポーツの群像」を取り上げ、2 期にわたって、スポーツに焦点化した展示の開催を企画した。

本学の学生文化を語るうえで、スポーツを欠かすことはできない。本テーマ展示では、100 年にわたる法政大学の各種スポーツを形作った人物や出来事を通して、学生スポーツと時代・社会の関わりを特集した。

＊以下のテキストは、展示会場に掲示したパネルおよびキャプションをそのまま掲載した。

1. 法政陸上の開拓者たち

法政陸上競技部は、野球部、相撲部に次いで長い歴史を持ち、1919（大正 8）年に「競走部」として誕生しました。ここでは 100 年の伝統を誇る法政陸上において、個人を尊重し、自由な部風を作り上げた 2 人を紹介します。

＊パネル写真　第 33 回箱根駅伝 4 区で区間賞を手にした馬場昭芳（1957 年）

1-1. 箱根駅伝初出場へ

1920（大正 9）年 2 月、法政陸上競技部の長倉恒夫は自分たちと同じ学生選手が東京―箱根間を走る光景をみて、チームプレーや団結力の大切さを痛感し、部の発展を考えて部員と話し合い、翌年参加を申し出ます。第 2 回から参加した学校は他に東京農業大学と中央大学で、法政の襷の色は黒でした。大学昇格によって学生数が増加したことで駅伝出場者を無事に確保できたものの、初出場は全 7 校中 6 位に終わりました。

＊パネル写真：草創期の陸上競技部（1927 年）

＊ QR コードパネル：東京箱根間往復大学駅伝競走公式サイト

1-2. 法政初のオリンピアン・大木正幹

箱根駅伝 100 年の歴史で、法政の最高順位は 1931（昭和 6）年および 1943 年の総合 3 位です。1931 年第 12 回大会では優勝を狙えると前評判も高く、往路優勝を遂げました。続く復路 6 区も区間賞を取るなど順調にみえたところが、9 区を走った大木正幹が体調不良で挑んだ結果、レース終盤で失速しました。

箱根駅伝に 4 度出場した大木は短距離選手で、法政関係者で初めてオリンピックに出場した一人です。当初は応援団や剣道部に在籍しましたが、学内運動会で好成績を残して陸上に誘われ、在学中の 1932 年ロサンゼルス大会に出場。400m は 2 次予選で敗れたものの、かねてより期待された 1600m リレー

で第 3 走者をつとめ､5 位入賞を果たします。当時の法政は 400m で活躍する選手が多く､｢400m 王国｣とも称されました。

卒業後の大木は指導者として母校陸上競技部の監督を務め、長く日本陸上競技連盟の運営にも尽力します。選手時代から自分の経験と信念に基づく練習を実践し、指導する立場になってからも、選手それぞれの体力や個性に立脚した走法を取り入れ、型にはめるような指導や練習の強制は誤りであると主張しました。

＊パネル写真：大木正幹（1933 年卒）

ロサンゼルス五輪 1600m リレーメンバー（月刊陸上競技提供）

1-3. 自由な部風を求めて　丸山吉五郎

1930 年代に黄金時代を迎えた学生スポーツとしての陸上競技は、戦争が激化するに従い「陸上戦技」となりました。1943（昭和 18）年入学の丸山吉五郎は昼間にグラウンドで練習し、夜になると学徒出陣で学び舎を去る先輩たちを東京駅で見送る毎日を過ごしたといいます。

戦後の新制大学で体育教員として母校に着任し、大木の後を継いだのが丸山でした。陸軍予備士官学校を卒業し宇都宮で終戦を迎え、物資の乏しいなかで海軍の飛行服を上下にばらして練習着にし、徐々に大学に戻ってきた部員たちと 1947 年日本学生陸上競技対校選手権大会（インカレ）に出場します。丸山は同大会で 110m ハードルおよび走幅跳で優勝するなど、法政陸上の復活を成し遂げる原動力となりました。

＊パネル写真：丸山吉五郎（1948 年卒）

1-4. 法政陸上の系譜

丸山は大学勤務の傍ら、1964 年東京オリンピックでは強化コーチを務めました。陸上競技の指導書や解説書を多く執筆し関東学生陸上競技連盟会長を務めるなど、技術だけでなく、学生とスポーツの在り方についても探究を重ねています。大学では陸上競技部部長・監督として、学生たちが自由に練習に取り組むことのできる環境を整え、低迷していた箱根駅伝の再興、1990 年代の法政陸上黄金期を支えました。

個性を尊重し、自由を求める法政陸上の部風は大木から丸山、そして現在にまで引き継がれ、数多くのトップアスリートを輩出しています。

＊ QR コードパネル:為末大氏インタビュー映像（法政フロネシス）

実物資料

1. 石黒昇が東京オリンピックの競歩競技で着用したランニングシャツ（個人蔵、1964年）
   石黒昇（1957年卒）は法政第一高校から大学に進学、卒業後、二部陸上競技部の監督を務めた。1964年東京オリンピックの陸上競技20km競歩に出場し、23位でゴール。35番のゼッケンの裏に当時２歳だった娘の写真を入れて走ったという。
2. 「勝守」が縫い付けられた箱根駅伝の襷（個人蔵、2002年・2005年・2006年）
3. 法政大学陸上競技部 公式戦用ユニフォーム（2021年）

2. 日本スキーの礎を築く

日本に本格的なスキー技術が導入されたのは 1910 年代のことです。ここでは生涯を通じてスキーの技術発展について自ら研究し、スポーツ文化の振興に貢献した福岡孝行教授と法政大学白馬山荘について紹介します。

＊パネル写真：福岡孝行の八方尾根での滑り（1937 年、（株）日本スポーツ文化研究所提供）

2-1. スキー部の創設者・泉掬次郎

法政大学にスキー部が正式発足したのは 1921（大正 10）年。創設者の泉掬次郎は樺太の中学校時代にスキーを覚え、陸上競技部部員として箱根駅伝に出場する傍ら単身で活動していました。スキー登山が盛んになると、泉主将率いるスキー部は 3 年の調査研究を経て、1923 年に 3 回目の挑戦で前人未到の積雪の妙高山を制覇します。泉は全日本スキー連盟や全日本学生スキー連盟の発起人にも名を連ね、「法政泉」の名が日本スキー界に轟きました。

＊パネル写真：泉掬次郎（1924 年卒）とスキー部員（1923 年、妙高山にて）

2-2. 福岡孝行と白馬八方尾根スキー場

中学時代から陸上競技選手として活躍した福岡孝行はトレーニングの一環としてスキーに親しみ、近代アルペンスキーの父といわれるオーストリアのシュナイダーに出会います。東京帝国大学在学中の 1937（昭和 12）年には、白馬一帯の山々を舞台に日本初の本格的スキー映画「スキーの寵児」を制作。また、後年のオーストリアでも導入された外傾、舵取りを取り入れ、著書『シュプール』でスキー技術を確立し、海外の技術書を実地に試しては翻訳を進めて『正しいスキー』、『自然なスキー』といった新しい技術書を世に送り出します。

戦争が激化すると、福岡は山案内人の太谷定雄を頼って長野県北城村細野（現白馬村八方）に疎開し、子供や青年らにスキーを指導しました。ある日、福岡は薪を集めに分け入った八方尾根でドイツの冬季オリンピック開催地にも引けを取らない理想的な地形を発見します。スポーツによる地域発展を目指す福岡は、地元の青年たちと共に山の大木を切っては里に降ろし、スキーコースを開拓しました。この地で 1947 年に始まったリーゼンスラローム大会は技術の巧拙に関係なく誰もが参加できる大会として知られ、スポーツを通して仲間や自然と交流するという福岡の理念は現在まで引き継がれています。

＊ QR コードパネル：白馬・山とスキーの総合資料館　公式サイト

＊パネル写真：福岡孝行（1913-1981 年）

映画「スキーの寵児」広告（『登山とスキー』第 8 巻第 8 号、1937 年）

2-3. 法政大学白馬山荘と長野オリンピック

リーゼンスラローム大会の存在は白馬のスキー人口のすそ野を広げ、地域全体が日本におけるスキーの発展に貢献することとなりました。一方で、福岡は 1952 年ドイツ語講師として法政大学に着任すると、「体を動かす喜び、自然との調和を感じてほしい」とオーストリアスキー教室を開き、亡くなるまでの 20 年以上にわたりスキー部部長を務めました。こうして法政大学と白馬のつながりが深まるなかで、福岡が中心になって計画が進められたのが、1965 年の白馬山荘建設です。

白馬山荘はスキー板を履いたままゲレンデにアクセスできる絶好のロケーションにあったことから、スキー授業やスキー教室はさらに充実していきました。その後、同地が 1998 年長野冬季オリンピックのジャンプ台建設地に選ばれたため、JR 白馬駅から約 1.2km 離れた雄大な白馬連峰を一望できる場所に移転しましたが、2017 年にその運営を終了し、現在は白馬高校の学生寮として利用されています。また、長野オリンピックで八方尾根がアルペンスキー会場に選ばれたことも福岡に先見の明があった証

であり、改めて福岡の存在が本学と白馬の人々の誇りとなりました。

＊パネル写真：1970 年代の法政大学白馬山荘

ハンズオン展示

福岡孝行の著作・翻訳書の数々

『シュプール』（肥田正次郎共著、登山とスキー社、1937 年）、『正しいスキー』（湖山社、1948 年）、『自然なスキー』（小笠原書房、1948 年）、『図解・新しいスキー技術』（スポーツイラストレイテッド編、ベースボール・マガジン社、1961 年）、『新オーストリアスキー教程』（オーストリア職業スキー教師連盟編、実業之日本社、1976 年）、『日本のスキー発達史』（1976 年）

3. デビスカップ代表と法政テニス部

日本がオリンピックで初めてメダルを獲得した競技は 1920（大正 9）年アントワープ大会のテニスで、その翌年、国別対抗戦のデビスカップに初参戦しました。ここでは法政テニス部出身のデ杯代表選手について紹介します。

＊パネル写真：ユニバーシアード・トリノ大会ダブルス優勝の神和住純（1970 年卒）

3-1. 戦前戦後のデ杯代表・中野文照

中野文照は 1932（昭和 7）年法政大学に入学すると、すぐにテニス部で頭角を現し、関西大学との定期戦で 5 年振りに勝利する原動力となりました。中野は自分で体験して考え抜いたものでなくては身につかないという信念を持ち、更なる練習相手を求めて積極的に早慶にも出向いたといいます。小柄ながら素晴らしいフォアハンドを打つ技量と強健さを備えた選手として将来を期待され、1937 年度デビスカップ代表選手に選出されました。当時のテニス部部長友岡久雄教授はフォアハンドの猛打で日本では中野の右に出るものなしと評価しています。

慶應義塾大学の山岸二郎とともに国際舞台で活躍し、1937 年全米選手権、1938 年全仏選手権で 4 回戦に進出しました。

2013 年錦織圭選手が全仏オープン男子シングルスで 4 回戦へ進出した際に、「1938 年の中野以来 75 年ぶりの快挙」と報道されたことは記憶に新しいところです。

＊パネル写真:中野文照(1938 年卒)とテニス部(1933 年)

3-2. 法政テニスの軌跡

2 年連続でデ杯代表に選出されていた中野でしたが、国内外の状勢悪化で派遣中止を余儀なくされました。陸軍の中国戦線で一命をとりとめて復員すると、全日本男子大会シングルス連覇を皮切りに 1951 年デ杯代表選手に選ばれ、戦後テニス界に見事復活を成し遂げました。

学生時代に中野と組んで強力ペアを誇った松本武雄の指導のもと、法政テニス部ではその後も、神和住純をはじめ、森清吉（旧姓菅)、柳恵誌郎、手塚雄士、九鬼潤、平井健一、加藤幸夫と数多くのデ杯代表選手を送り出しています。

＊パネル写真：戦後復活した法政テニス部の部員たち（1946 年、下津佐正夏撮影）

＊ QR コードパネル:日本テニス協会公式サイト　歴史･テニスミュージアム「思い出に残るあの試合」

実物資料

神和住純モデル テニスラケット（1970 年代、Kawasaki 製）

神和住純（1970 年卒）は法政大学第二高校から大学に進学し、インカレで史上初のシングルス 3 連覇を達成。このラケットは学生時代から 1973 年に戦後初のトーナメントプロになるまで使用していたモデル。

謝辞

本展示の開催に際し、以下の個人・団体の皆様をはじめ多くの方々にご協力を賜りました。この場を借りて感謝申し上げます。

法政大学体育会陸上競技部、(株）陸上競技社、石黒かおる氏（石黒昇氏ご息女）

法政大学体育会スキー部、(株）日本スポーツ文化研究所、福岡孝純氏（福岡孝行氏ご子息)、

白馬・山とスキーの総合資料館

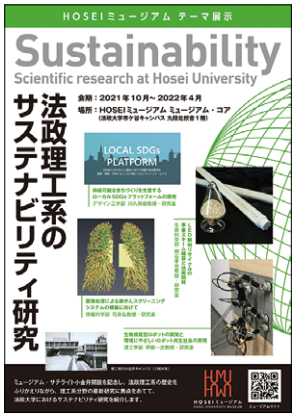
法政大学体育会テニス部、神和住純氏、日本テニス協会

（文責：北口由望）

＜2021 年度秋学期テーマ展示＞

法政理工系のサステナビリティ研究
Sustainability Scientific research at Hosei University

会期：2021 年 10 月 15 日～ 2022 年 4 月（予定）



概要

HOSEI ミュージアム・サテライト小金井の開設を記念し、2021 年度秋学期のテーマ展示では「持続可能性」を取り上げた。持続可能性研究において、理工系分野を欠かすことはできない。そこで、本テーマ展示では、法政理工系の歴史をふりかえりながら、理工系分野の最新のサステナビリティ研究に焦点をあてて、法政大学におけるサステナビリティ研究を紹介した。

＊以下のテキストは、展示会場に掲示したパネルおよびキャプションをそのまま掲載した。

法政理工系のあゆみ１ －度重なる校舎移転の中での発展－

法政理工系のはじまりは、1944（昭和 19）年創設の法政大学設立航空工業専門学校にさかのぼります。機体専修 100 名、発動機専修 200 名の入学定員に対し、入営・召集延期の特典などから 10 倍を超す

志願者がありました。川崎木月校舎近くには逓信省航空局航空試験所があり、資材や技術者の提供を受け、実験・実習設備を利用できました。

ところが、敗戦によって国の重要産業であった航空業は大きな転換を迫られ、学校も創立後わずか1年半で法政工業専門学校に改組します。機械科1科で始まった工専は1947年には電気通信科・建築科を増設し、千葉県習志野の旧陸軍兵舎を利用した校舎へ移転しました。広い土地で自ら甘藷（かんしょ）や小麦を作り、駅から学校まで4キロの田舎道を教員と学生が色々な話をしながら一緒に歩く日々だったといいます。この時期、入学志願者を集める目的で開催した千葉県下中等学校（のち高等学校）放送討論会は予想以上の好評を得て、工専が習志野を離れた後も大学主催で1968年まで続きました。

1950年富士見校地で工学部（機械工学科・電気工学科・建築工学科・経営工学科）が発足し、初代学部長には蒸気動力工学の権威、加茂正雄が就任しました。しかしその2年後、再び麻布校舎へ移転します。校地も狭く、老朽化した校舎でしたが、狭いがゆえに教授と学生の関係には親密さが生まれました。また日本社会全体の経済成長、技術革新を追い風に、入学志願者数は年々急増し、活気に満ちた学び舎でした。

習志野校舎（旧陸軍騎兵学校兵舎）

麻布校舎（社会学部の前身・中央労働学園大学の校舎を利用）

1955年頃の工学祭

初代工学部長加茂正雄
（1950-1960年）

法政理工系のあゆみ２ －念願のキャンパス－

技術革新が叫ばれた昭和30年代に入ると学生数は大幅に増加し、工学部の施設拡充は急務となります。しかしながら、当時の大学理事会は既設文系学部の拡充に努力する一方、設備投資を要する工学部に関しては慎重でした。そうしたなかで技術系学部の存在意義に深い理解を示したのが1959年に総長に就任した有沢広巳です。有沢は大学創立85周年記念事業の筆頭に工学部新校舎建設をかかげ、事態が急速に進展しました。そして中央線新駅（のちの東小金井駅）の設置が決まると、工学部用地としての小金井キャンパス開設が正式に決定したのです。

小金井校舎設計監理委員会には篠原三郎・岩下秀男・山田水城・青木繁といった工学部建設工学科の若手教員が参加し、1 人の建築家が設計するのではなく、複数人による協同設計という新しい試みは建築界でも注目されました。1964 年に開設された新キャンパスは主に教室棟･研究棟･管理棟で構成され、それぞれがブリッジ型の渡り廊下や地下部分のドライエリアで結ばれていて、従来の学校建築にみられた学科別の独立棟ではなく、学問分野を超えた交わりも意識し、機能別に分けた設計に特徴がありました。

1980 年代から 1 年生が多摩キャンパスを利用した時期（2000 年まで）も経て、1990 年代に入ると南館竣工を皮切りに大規模な再開発を開始しました。その後は 2000 年に情報科学部、2007 年にデザイン工学部（市ケ谷キャンパス田町校舎）､2008 年に理工学部･生命科学部が設置され､現在に至ります。

有沢広巳総長
（1959 － 1962 年）

開設当時の小金井キャンパス（1964 年）

現在の小金井キャンパス全景

＊実物資料

『新建築』第 38 巻第 4 号（新建築社、1963 年 4 月 1 日発行）

『新建築』第 39 巻 9 月号（新建築社、1964 年 9 月 1 日発行）

妹尾三郎（1958 年工学部卒）旧蔵資料（1954 ～ 1958 年）

持続可能なまちづくりを支援するローカル SDGs プラットフォームの開発

デザイン工学部建築学科　建築・都市環境研究室　川久保俊

法政大学デザイン工学部建築学科川久保俊研究室では、持続可能な開発目標（SDGs）を原動力としたまちづくりに関する研究を行っています。具体的には全国各地で広がる「ローカル SDGs」に関する取り組み情報を登録、検索、共有することを可能とする「ローカル SDGs プラットフォーム（https://local-sdgs.jp/）」を開発、運用しています。

SDGs を原動力とした持続可能なまちづくりに取り組む全国の自治体関係者の

「SDGs の達成に向けてどのように取り組めばいいか分からない」、

「SDGs に対する取り組みを開始するにあたって先進的な取組事例が知りたい」、

「SDGs に関する最新情報が欲しい」といった声を受けて開発したものです。

上記のようなまちづくりの現場の声を受け、ローカル SDGs プラットフォームでは研究調査の成果として以下のようなコンテンツを提供しています。

1）SDGs の 17 ゴールごとに各自治体の状況を可視化する指標データベース

2）全国の自治体における各種計画への SDGs の盛り込み状況データベース

3）SDGs に先駆的に取り組まれている自治体担当者へのインタビュー記事

などを掲載しています。ご関心のある自治体に関する情報へアクセスいただき、持続可能なまちづくりに向けた取り組みをご確認ください。

LED 照明リサイクルの事業スキーム構築と技術開発

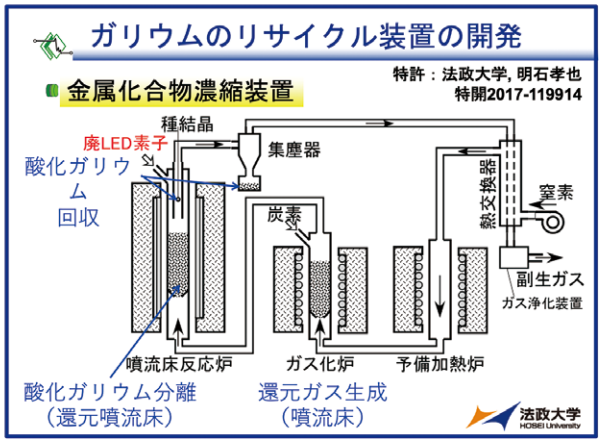
生命科学部環境応用化学科　無機固体化学研究室　明石孝也

法政大学生命科学部と研究開発センターは、企業と連携して LED 照明をリサイクルする事業スキームを業界で初めて構築しました。この仕組みに基づいて、2016 年 4 月から LED 照明をリサイクルする事業が本格的に始まりました。この事業により、LED 照明に用いられているアルミニウムと銅と貴金属などのリサイクルがなされるようになり、法政大学は持続可能な社会に大きく貢献しました。

また、廃棄されている LED 照明が発光する部分には、LED 素子としてガリウムと窒素の化合物（窒化ガリウム）が用いられています。このガリウムという元素は、近年の電子産業に不可欠な元素です。例えば、太陽光パネルや液晶ディスプレイの多くには、ガリウムの化合物が用いられています。また、ガリウムと酸素の化合物(酸化ガリウム)はパワー半導体としての実用化が期待されております。しかし、ガリウムはレアメタルの一つであるため、今後の需要増加に対して供給が不足するリスクがあります。

そこで、廃棄される LED 素子に含まれる窒化ガリウムを、酸化ガリウムとして分離・回収するためのリサイクル装置を生命科学部で開発しました。この装置は、窒化ガリウムを含む LED 素子を敷き詰め、その下から酸素の少ない高温ガスを噴き上げる構造となっており、この装置を用いて LED 素子からガリウム成分を酸化ガリウムとして分離・回収することに成功しました。

現在は、回収された酸化ガリウムの収率と純度を高め、リサイクルの経済性を向上させることが課題となっています。



＊実物資料

使用済み直管型 LED 照明、LED 素子、ガリウム、窒化ガリウム、酸化ガリウム（無機固体化学研究室所蔵）

画像処理による肺がんスクリーニングシステムの構築に向けて

情報科学部ディジタルメディア学科　多次元画像処理研究室　花泉弘

現在の医療ではマルチスライス CT によって、1mm 程度の輪切り状の体の断面図を撮影できますが、一方で複数の画像を読影する医師の負担が増し、腫瘤を見落としてしまうリスクがあります。そこで、２つの時期の画像からそれぞれ３次元（3D）の血管形状を抽出し、精度よく重ね合わせて差分を取ることで、その間に現れた腫瘤を検出する方法を試みています。肺内部の血管は多くの分岐を伴った複雑な形状ですが、人による違いがあっても同一人物において時間的な変化はありません。

この研究では、精度よく重ね合わせるために、血管の分岐点を使います。図１は、ホモトピーの理論に基づいて１層ずつ血管内部を認識して領域を成長させていくようすを表しています。根元の方から分岐点ごとに重ねていくのですが、分岐点の見つけ方が問題になります。図２の連続する２つの層 A と B とにおいて、A を２つにちぎらなければ、どのように変形させても B には一致しません。このようなところを分岐点として検出しています。図３は本手法の性能評価を兼ねて気管支（内部は空気）を追跡した結果です。実際に抽出した血管を根元の部分が重なるように表示した図４では、６ヶ月の間隔がありますが、どちらも同じように分岐しているのがわかります。

現在、精度良く重ねるための研究を継続しています。人間に代わってコンピュータが画像情報を処理・認識するシステムの研究は医療という実生活にも密接にかかわり、すべての人々の健康的な暮らしを支える社会の実現につながります。

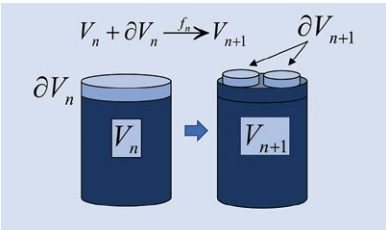


図１　分岐点における層毎の成長

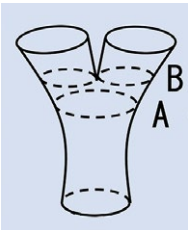


図２　分岐点前後の断面の違い

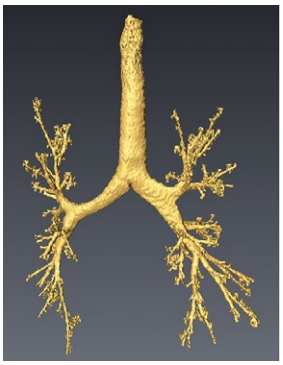


図３　気管支形状の認識例

図４　肺内部の血管の認識例（緑が現在、黄色が６ヶ月前）

※図３・４のデータは国立がん研究センターから提供を受けた。

生物規範型ロボットの開発と環境にやさしいロボット共生社会の実現

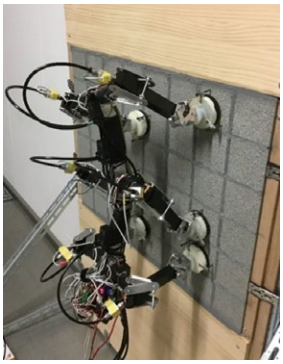
理工学部電気電子工学科　知能ロボット研究室　伊藤一之

一般に、ロボットを制御するために必要とされる計算量は、自由度の増加に伴い指数的に増加してしまい、計算が追いつかなくなってしまうという問題が生じます。そしてこれが、日常生活で働くロボットの実現における大きな障壁となっています。

一方、自然界では、極めて多くの自由度を持った生物が、いとも簡単に適応的に振舞っています。なかでも、下等生物は、脳の情報処理能力が小さく、中には、脳と呼べる中枢を持たないものも存在します。それにもかかわらず、これらの生物の振る舞いは適応的であり、ある種の知性を備えているように見えます。この事実は、「脳が身体の各部を制御することで知的な振る舞いを生成している」とする従来の枠組みでは説明がつきません。

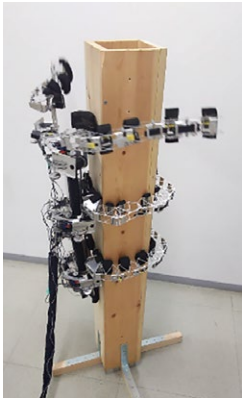
近年、この矛盾を解決するため、知性の源を身体や環境に求める研究が試みられてきました。一見、不思議に感じられるかもしれませんが、我々人間も含め、生物の適応的な振る舞いの多くは、脳が直接生成したものではなく、環境により身体がガイドされ、環境と身体との相互作用により発現したものです。

本研究室では、この枠組みをもとに、生物のように柔らかい身体や関節を持ったロボットを開発し、知的な振る舞いを発現するメカニズムについて研究をしています。また、これらのロボットを、災害救助活動、インフラの保守点検、農林業などへ応用する試みにも力を入れており、今後、持続可能な社会の実現にも大きく寄与することが期待されています。



URARAKA：壁面を登攀（とうはん）する多脚型ロボット

吸盤や関節、体幹に柔軟性を有し、様々な壁面を移動することができます。



TAOYAKA：柱状物を昇降する多脚ロボット

腕の関節は全て受動関節で出来ており、様々な形の柱状物をその形に合わせて包み込むように把持して昇降することができます。

TAOYAKA-S: 柱状物を昇降する多脚ソフトロボット

全身がシリコンゴムにより作られており、木などの柱状物を昇ることができます。

また、体の柔らかさを活かし、細長い風船など柔らかいものにも対応可能です。

タコの振る舞いを再現したソフトロボットハンド

シリコンで作られた螺旋状の腕を使って様々な形の物体を把持することができます。

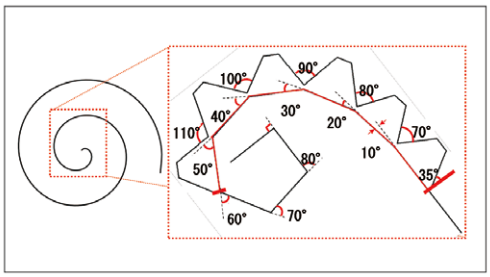
＊実物資料

URARAKA：壁面を登攀（とうはん）する多脚型ロボット（知能ロボット研究室所蔵）

タコの振る舞いを再現したソフトロボットハンド

ロボットハンドには、形状を測るためのセンサーや、制御用のコンピューターは搭載されていません。それにもかかわらず、物体に合わせた動き方で上手く掴むことができます。この適応的な振る舞いは、物体（環境）とハンド（身体）との相互作用により発現したもので、運動を生成するための計算は、環境と身体の物理的特性を使って行われています。

一見単純な仕組みに見えますが、実は、ロボットハンドの形状は、生物のタコをヒントに、螺旋形の一部となるように設計されており、この力学的な特性により、物体に根本から順に巻き付くという振る舞いが生成されているのです。



設計の一例

映像コンテンツ

1．生命科学部環境応用化学科　明石孝也教授
（2020 年法政科学技術フォーラムより）　6 分 40 秒

2．理工学部電気電子工学科　伊藤一之教授
Wall Climbing Robot URARAKA Ⅳ
Pipe Climbing Robot TAOYAKA- Ⅲ
Pipe Climbing Robot TAOYAKA-S Ⅱ
Flexible manipulator inspired by Octopi　計 5 分 30 秒

3．デザイン工学部建築学科　川久保俊教授
「SDGs 入門講座と学生による SDGs 研究事例紹介」
（法政大学入学センター制作）　26 分 40 秒

4．理工学部電気電子工学科　伊藤一之教授
Flexible manipulator inspired by Octopi Long arm type
Ladder Climbing Robot inspired by Octopus-like Behavior
Semi-autonomous Centipede-like Robot SHINAYAKA-L V
Pipe Climbing Robot TAOYAKA- Ⅳ　計 5 分

（監修：北口 由望）

デジタルアーカイブ登録資料（2021 年度）

https://museum.hosei.ac.jp/archives/Users/Top

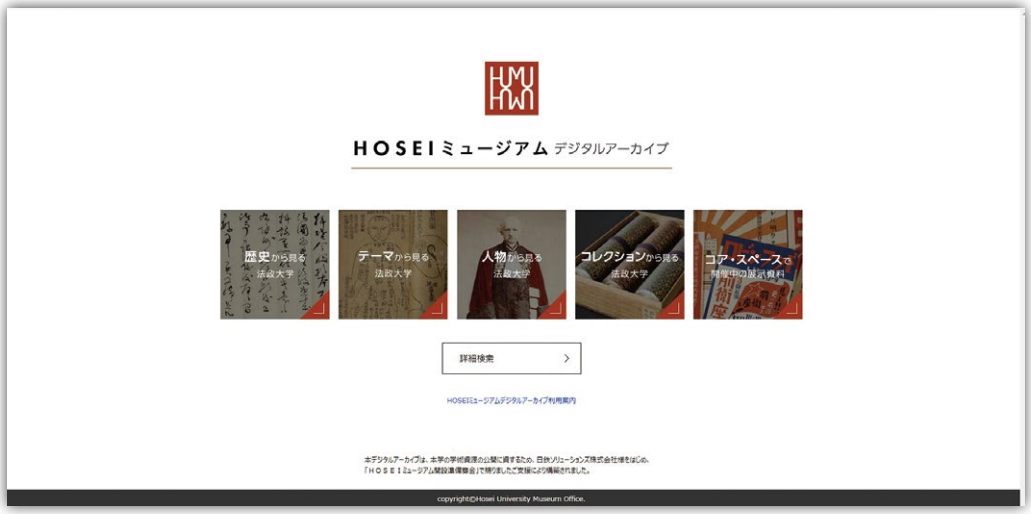
1. HOSEI ミュージアムデジタルアーカイブについて

HOSEI ミュージアムデジタルアーカイブは、法政大学の貴重な学術資料やコレクションをデジタル化して保存・管理し、学内外への公開・活用を促進することを目的に構築した（2020 年 3 月 18 日公開開始）。

タイトルやキーワードから資料を検索（閲覧）できるだけでなく、「歴史」「テーマ」「人物」「コレクション」などのカテゴリーごとに資料を一覧で表示し、表示された資料の画像データを閲覧することができる。また、ネットワーク上に公開するだけでなく、ミュージアム・コア内のデジタル展示とも連動している。

なお、2021 年 2 月から以下の URL にデジタルアーカイブの利用案内を公開した。

https://museum.hosei.ac.jp/archives/Users/Top/ToAnnai



2. 2021 年度のデジタルアーカイブ登録資料

2021 年度、デジタルアーカイブに新たに登録された資料群・コレクションは以下の通りである（2022 年 3 月公開開始）。

HOSEI ミュージアム所蔵　法政大学戦前期卒業アルバム

HOSEI ミュージアム所蔵　和仏法律学校講義録

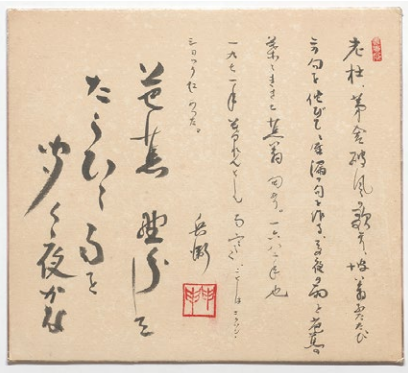
大原社会問題研究所所蔵　大内兵衛資料

沖縄文化研究所所蔵　琉球古文書資料　＊ 2022 年度春学期テーマ展示関係資料

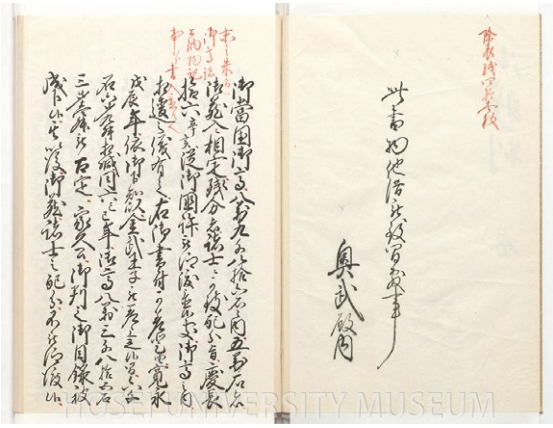
野上記念法政大学能楽研究所所蔵　野上豊一郎資料

HOSEI ミュージアム所蔵
法政大学戦前期卒業アルバム

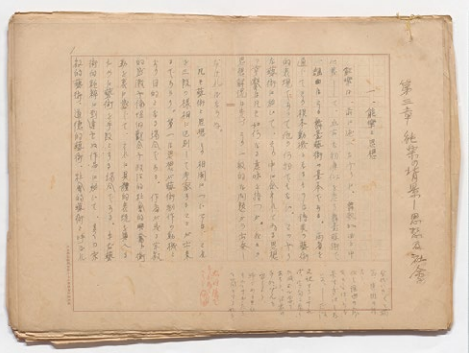
HOSEI ミュージアム所蔵
和仏法律学校講義録



大原社会問題研究所所蔵
大内兵衛資料



沖縄文化研究所所蔵 琉球古文書資料



野上記念法政大学能楽研究所所蔵
野上豊一郎資料

＊デジタルアーカイブ 新規登録資料数　145 点（2022 年 3 月予定）

＊デジタルアーカイブサイト　アクセス数　5,171 件（2021 年 1 月～ 12 月）

HOSEI ミュージアム
デジタルアーカイブ

自校教育との連携

1. 法政大学における自校教育

法政大学では、2011 年度から市ケ谷キャンパスにおいて自校教育科目を開講している。

2011 年秋学期に開講された基礎科目「大学を知ろう ＜法政学＞への招待」（旧科目名：「法政学への招待」）では、法政大学が 1880 年の創設以来、どのような歩みを経て現在に至っているかを、日本近現代史の大きな流れと連動させながら授業を展開している。毎回、そのテーマに詳しい教員が交代で担当するだけでなく、卒業生ゲストによる「先輩からのエール」や総長自らが講義を担当する回もある。

2015 年度秋学期に開講された発展科目「法政学の探究 LA」（ 旧科目名：「法政学の探究 A」）では、本学で教えた教員や学んだ学生を、毎回、一人ずつ取り上げ、その人物に詳しい学内外の講師が講義を担当している。

「法政学の探究 LB」（2016 年度春学期より開講　旧科目名:「法政学の探究 B」）は、「学生（法大生）」の歴史と文化に焦点をあて、ゼミナール形式で開講されている。

2. 2021 年度における自校教育との連携

2021 年度はコロナ禍により､3 科目ともハイブリッド形式もしくはオンラインにて授業が実施された。

(1) 大学を知ろう ＜法政学＞への招待（春学期　科目責任者：小林ふみ子、小倉淳一）

「大学を知ろう ＜法政学＞への招待」では、担当教員・各回担当者から本科目での学びに役立つものとして､本ミュージアムデジタルアーカイブが紹介され､複数の回で広報誌『法政』掲載の「HOSEI ミュージアム」の記事が活用・紹介された。

(2) 法政学の探究 LA（秋学期　科目責任者：髙柳俊男、古俣達郎）

「法政学の探究 LA」では、事前学習・復習として、ミュージアム・コアの展示コンテンツの参照及び同デジタルアーカイブの調査を推奨している。第 7 回の講義「『法政スピル（法政精神）』の体現者中野勝義」（担当者:古俣達郎）では、同授業内で特集した中野勝義及び内田百閒のエピソードがミュージアム・コア（大学史ゾーン）に展示されていることが紹介された。また、第 8 回では HOSEI ミュージアム所属の北口由望学芸員が漱石門下の教員で戦前期に予科長などを歴任した井本健作について講義を行い、第 13 回では 2021 年度春学期テーマ展示「HOSEI スポーツの原点 II 期」で特集した福岡孝行本学名誉教授について、ご子息の福岡孝純元本学スポーツ健康学部教授による講義が行われた。

（3）法政学の探究 LB（春学期　科目責任者：古俣達郎）

「法政学の探究 LB」においても、事前学習としてミュージアム・コアの展示コンテンツの参照及び同デジタルアーカイブの調査を推奨し、第 3 回の授業では、ミュージアム・コアの展示をもとに本学の歴史について授業を展開する計画であった。しかし、コロナ禍により、昨年度に引き続き、実地教育は見送ることとなった。

なお、第 4 回の授業「デジタルアーカイブの使い方」では受講生自ら法政大学が所蔵する各種資料や法政大学の歴史に関連する資料をデジタルアーカイブにて調査し、課題レポートを作成した。

新規収蔵資料

1. 寄贈資料

(2021 年 1 月～ 12 月、受領順、敬称略)

資料名：石黒昇旧蔵資料
寄贈者：石黒かおる
概　要：法政一高から大学に進学した石黒（1957 年卒）は二部陸上競技部で活躍し、卒業後も監督として部の発展に貢献した。1964 年のオリンピック・東京大会では陸上競技 20km 競歩に出場して 23 位でゴール。学生当時の教科書や「法政大学史学会会報」などが、ご遺族より寄贈された。

資料名：杉沢宏旧蔵資料
寄贈者：杉沢宏（1999 年卒）
概　要：1972 年札幌オリンピック冬季大会記念バッジなど、杉沢氏が同大会組織委員会に参加していた当時の資料。

資料名：林義雄・林丈弘旧蔵資料
寄贈者：林丈弘（1967 年卒）
概　要：1941 年経済学部卒業の林義雄、ご子息・丈弘氏の旧蔵資料。義雄は在学中にボクシング部に所属しており、「東京六大学拳闘リーグ」記念品や卒業アルバムのほか、学校教練に関する資料などが寄贈された。

資料名：法政大学工業学校卒業アルバム (1941 年)
寄贈者：黒澤重美
概　要：えんじ色のベロア生地で装丁された表紙には皇紀「2601」年と印字されている。資料の由来は不明。

2. 購入資料

(2021 年 1 月～ 12 月、購入順)

資料名：法政大学法学部卒業アルバム(1932 年)
概　要：当時の法政大学では、航空研究会が学生によるローマ飛行を成功させ、藤田信男監督率いる野球部が六大学野球で優勝するなど、学生文化が花開いた。

資料名：大東京電車早見（実行堂、1927 年)、大東京電車案内（九段書房、1934 年)
概　要：開設記念特別展示「都市と大学」に関連した資料。

資料名：福岡孝行関係資料
概　要：2021 年度春学期テーマ展示に関連した福岡の著作および翻訳本。『登山とスキー』第 8 巻第 8 号(1937 年)、『シュプール』（肥田正次郎共著、登山とスキー社、1937 年)、『正しいスキー』（湖山社、1948 年)、『自然なスキー』（小笠原書房、1948 年)、『図解・新しいスキー技術』（スポーツイラストレイテッド編、ベースボール・マガジン社、1961 年)、『新オーストリアスキー教

程』（オーストリア職業スキー教師連盟編、実業之日本社、1976 年）、『日本のスキー発達史』（1976 年）。

資料名：丸山吉五郎関係資料
概　要：2021 年度春学期テーマ展示に関連した丸山の著作『陸上競技を見るための本』（上下巻、同文書院、1982 年）、『陸上競技教室』（古藤高良・佐々木秀幸共著、大修館書店、1971 年）。

資料名：神和住純関係資料
概　要：2021 年度春学期テーマ展示に関連した神和住の著書『わが青春の軌跡』（光風社書店、1977 年）および神和住純モデル テニスラケット（1970 年代、Kawasaki 製）。

資料名：城戸幡太郎書簡
概　要：城戸は戦前、法政大学高等師範部で部長などを務めた教育学者。書簡は 1967 年 11 月 1 日、岩波書店編集者・長田幹雄に宛てたもので、翌年刊行される『心理学問題史』の構想について相談している。

資料名：徴兵関係学生之証
概　要：年代不明。「法政大学教務部」の朱印が押され、専門部商科の学生が所持していたと考えられる。

資料名：富井政章書簡
概　要：富井は東京法学校（法政大学の前身の一つ）時代から教員を務めた法学者で、1935 年に亡くなるまで長きにわたり、本学を支えた。書簡は 8 月 16 日（年代不明）の消印、九鬼隆一宛で、「承久変後」に関する示唆につき御礼を述べている。

資料名：法政大学工学部校舎関係資料
概　要：サテライト小金井および 2021 年度秋学期テーマ展示に関連した資料。『新建築』第 38 巻第 4 号（1963 年 4 月）、同第 39 巻第 9 号（1964 年 9 月）、『法建会誌』第 9 号（1936 年 3 月）、『建築』第 31 号（1963 年 4 月）。

資料名：法政大学経済学部会学生会員名簿
概　要：1935 年 6 月現在、1936 年 6 月現在の 2 冊で、いずれも「経済学部雑誌部編」。小野武夫教授を会長に、経済学部教員および在学生で組織されていた。

資料名：昭和 7・8・9 年度学生証
概　要：いずれも専門部第二部商科に通う学生の旧蔵資料で、旅客運賃割引証が挟まっていた。

資料名：小田切秀雄年賀状
概　要：1970 年、1975 年、1977 年の 3 通で、すべて歌人・木俣修宛。文芸評論家として知られる小田切は 1941 年文学部を卒業したのち母校・法政大学の教員となり、1965 年から 1 年間、総長代行を務めた。

資料名：法政大学校友名簿

概　要：1903 年 12 月調査、1907 年 12 月改正の 2 冊。1899 年に和仏法律学校（法政大学の前身）校長に就任した梅謙次郎は校友会との関係改善に務め、1903 年時点で、関西・九州・東北・台湾・信濃の各支部が設置された。

資料名：法政大学映画研究会資料

概　要：「Cinema de Hosei」№.12（1958 年 6 月 10 日）、13（1959 年 6 月 10 日）をはじめ、昭和 30 年代の法政大学映画研究会に関する資料。

資料名：安倍能成葉書

概　要：哲学者の安倍は法政大学の大学昇格時に着任。京城帝国大学に赴任するため 1926 年に退職するものの、戦後は理事として復帰し、同じく夏目漱石門下の野上豊一郎総長を支えた。葉書は 1937 年 3 月 19 日消印、歌人・中河幹子宛。

資料名：乾政彦書簡

概　要：本学元講師で法学者の乾が、東京帝国大学法科大学（現・東京大学法学部）同級生で銀行家の今村幸男に宛てた書簡。1913 年 1 月 9 日消印。前年発生した借金騒動の顛末について報告している。また、これに関連して、今村宛の鈴木四十書簡 2 通（1910 年 10 月 23 日、1913 年 1 月 9 日消印）あり。

資料名：寒川光太郎草稿

概　要：寒川（本名：菅原憲光）は法政大学を中退し、1939 年に発表した「密猟者」で芥川賞を受賞した作家。草稿は「へえじゃが気質」と題し、当時寒川が在住していた広島地方の人々の口癖がタイトルとなっている。

（文責：北口 由望）

入館データおよび各種活動
（メディア掲載含む）

1. 入館者数

2021 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で数回にわたる緊急事態宣言発出中（2021 年 1 月 8 日～ 3 月 21 日、4 月 25 日～ 6 月 20 日、7 月 12 日～ 9 月 30 日）は時間短縮開館となったが、一般の方をお迎えすることができ、特に江戸東京研究センター特別展開催期間（2021 年 9 月 7 日～ 10 月 3 日）には多数の方にご来場いただいた。

総来館者数：1325 名（2021 年 1 月 8 日～ 12 月 25 日）

＊内訳：	本学学生・生徒	247 名	本学学生・生徒の保護者	58 名
	本学教職員	214 名	本学卒業生	238 名
	その他一般	567 名	不明	1 名

2. 見学会・展示解説

2 月 16 日　野球殿堂博物館

3 月 18 日　高額寄付者（福田明安様、薩埵真二様）

3 月 22 日　清水建設株式会社 技術研究所

4 月 9 日　新入職員配属前研修会

4 月 16 日　法律学校研究会

＊専修大学、中央大学、日本大学、明治大学、各校の大学史研究者の皆様。

4 月 21 日　河野有理法学部教授およびゼミ生

5 月 11 日　自校教育の授業参加者のミュージアムオンライン観覧

6 月 29 日　（株）日本スポーツ文化研究所

8 月 6 日　千代田区キャンパスコンソーシアム職員合同研修

8 月 23 日　凸版印刷株式会社

9 月 10 日　樋口高顕千代田区長

10 月 7 日　ヨング、ジュリア経済学部教授

12 月 2 日　公益社団法人日本看護協会

3. 研究活動

5 月 27 日　全国大学史資料協議会東日本部会 2021 年度総会

＊古俣所員講演：「法政大学における大学史編纂の歩みと HOSEI ミュージアムの開設について」

＊北口所員講演：「HOSEI ミュージアムの取り組み―大学史展示をデジタルサイネージでみせる―」

4. 広報誌『法政』掲載「HOSEI ミュージアム」

1・2 月号	Vol.015	大学昇格そして市ケ谷キャンパス開設から 100 年 ～初代学長・松室致～
3 月号	Vol.016	HOSEI ミュージアム開設記念特別展示　都市と大学 ～法政大学から東京を視る～
4 月号	Vol.017	法政陸上の開拓者たち～法政初のオリンピアン・大木正幹～
5 月号	Vol.018	日本スキーの礎を築く～福岡孝行と法政大学白馬山荘～
6・7 月号	Vol.019	法政テニスの軌跡～法政初のデビスカップ代表・中野文照～
8・9 月号	Vol.020	江戸東京研究センター（EToS）特別展示　江戸と東京との連続性 ～文理の壁を越えて、現代的意味を追究～
10 月号	Vol.021	ミュージアム･サテライト小金井竣工記念　法政理工系のあゆみ（前編） ～度重なる校舎移転のなかで発展～
11・12 月号	Vol.022	ミュージアム・サテライト小金井竣工記念　法政理工系のあゆみ （後編）～念願のキャンパス～

5. メディア協力

1 月 7 日	法政大学法学部 『法政大学法学部創設百周年記念誌　自由と進歩の学び舎』掲載のための写真提供
2 月 4 日	株式会社第一学習社 「日本史探究」（教科書）掲載のための写真提供
3 月 1 日	東京新聞・中日新聞編集局取材 3 月 5 日付『東京新聞』にて、法政大学フェンシング部の創設者・渋谷忠三について紹介
3 月 3 日	法政大学法学部 2022 年法政大学法学部パンフレット掲載のための写真提供
4 月 9 日	東京新聞・中日新聞編集局取材 5 月 28 日付『東京新聞』にて、法政大学航空研究会の訪欧飛行について紹介
5 月 24 日	中央公論新社 山本一生氏著『百間、まだ死なざるや―内田百間伝』（中央公論新社、2021 年刊行）掲載のための写真提供
7 月 15 日	法政大学経済学部同窓会取材

経済学部同窓会ウェブサイト、神奈川県校友会ウェブサイトにて、テーマ展「HOSEI スポーツの原点　II期」紹介

7月21日　東京新聞・中日新聞編集局取材

8月10日付『東京新聞』にて、多摩送信所について紹介

8月11日　東海国立大学機構大学文書資料室

『名古屋大学創立80周年記念史』（仮称、令和4年3月刊行予定）掲載のための写真提供

8月27日　スポーツ法政取材

9月6日付『スポーツ法政』にて、HOSEIミュージアム紹介

10月18日　総務省統計局統計情報利用推進課

統計博物館展示パネル掲載のための写真提供

10月22日　最高裁判所事務総局秘書課

裁判所ホームページ（英語版）掲載のための写真提供

11月14日　法政大学リカレント・通信教育センター事務部

通信教育部「入学案内」（2022年度版）掲載のための写真提供

11月22日　法政大学文学部

2023年法政大学文学部パンフレット掲載のための写真提供

6. メディア掲載

9月6日　『スポーツ法政』

「HOSEIミュージアム」

組織および関連委員会・構成・規程

（2021 年 4 月～ 2022 年 3 月）

1．組織および関連委員会・構成

館長　　田中優子

副館長　平塚眞樹

学芸員　古俣達郎（任期付専任所員･准教授）

学芸員　北口由望（専門嘱託）

HOSEI ミュージアム運営委員会

田中優子（委員長，館長）

平塚眞樹（副館長，社会学部教授）

古俣達郎（任期付専任所員・准教授）

藤田　悟（情報科学部長，同教授）

五十嵐聡（法政大学第二中･高等学校学校長）

榎　一江（大原社会問題研究所専任研究員・教授）

大里知子（沖縄文化研究所専任所員･准教授）

明田川融（大学史委員会，法学部教授）

鈴木智道（大学史委員会，社会学部准教授）

金山喜昭（資格課程委員会，キャリアデザイン学部教授）

奥西好夫（図書館長，経営学部教授）

山中玲子(野上記念法政大学能楽研究所所長･教授）

開催日：

第 1 回　2021 年 5 月 28 日

第 2 回　2021 年 7 月 30 日

第 3 回　2021 年 11 月 12 日

第 4 回　2022 年 2 月 25 日

小委員会

（1）デジタルアーカイブ運営小委員会

担当：大里知子委員，奥西好夫委員

開催日：

第 1 回　2021 年 7 月 9 日

（2）資料選定小委員会

担当：明田川融委員，山中玲子委員

開催日：

第 1 回　2021 年 7 月 2 日

第 2 回　2022 年 1 月 24 日（メール審議）

（3）紀要編集委員会

担当：鈴木智道委員，榎　一江委員

開催日：

第 1 回　2021 年 6 月 18 日

第 2 回　2021 年 10 月 8 日

第 3 回　2022 年 1 月 14 日

＜関連委員会＞

大学史委員会

梅崎 修（委員長, キャリアデザイン学部教授）

鈴木智道（副委員長，社会学部准教授）

根崎光男（人間環境学部教授）

髙柳俊男（国際文化学部教授）

小林ふみ子（文学部教授）

明田川融（法学部教授）

古俣達郎（HOSEI ミュージアム任期付専任所員・准教授）

開催日：

第 1 回　2021 年 7 月 16 日

創立 150 周年に向けた取り組みに関する MTG　2021 年 8 月 25 日

第 2 回　2021 年 10 月 22 日

第３回　2022 年２月 21 日

HOSEI ミュージアム事務室

事務室長　生田眞敏

課長　　近藤恭子

主任　　秋山彩子

専門嘱託　北口由望

事務嘱託　鈴木裕子

臨時職員　林　良子（2021 年４月～９月）

2. 規程

HOSEI ミュージアム規程

規定第 1331 号

一部改正　2021 年４月１日

（名称）

第１条　本学は学則第５条に基づき，大学の付属施設として HOSEI ミュージアム（以下「ミュージアム」という。）を置く。

（目的）

第２条　ミュージアムは，学校法人法政大学が設置する学校の歴史及び教育・研究成果，並びに本学が有する学術資源を広く展示，公開，調査・研究することにより，本学の教育・研究の発展に資することを目的とする。

（事業）

第３条　ミュージアムは，前条の目的を達成するために次の事業を行う。

(1) 学校法人法政大学が設置する学校の特徴ある教育・研究成果・資源の展示，公開，それに資する調査・研究，資料収集のための事業

(2) 自由度の高い学術研究コラボレーションの促進のための事業

(3) 本学が有する学術資源の管理基盤強化のための事業

(4) 学校法人法政大学が設置する学校における自校教育に資する事業

(5) その他前条の目的達成に必要な事業

（構成）

第４条　ミュージアム事業を行うため，次に掲げる各号の職を置く。

(1) 館長　　１名

(2) 副館長　　１名

(3) 専任所員　　若干名

(4) 任期付専任所員　若干名

(5) 兼担所員　　若干名

(6) 専門嘱託　　若干名

（館長・副館長）

第５条　館長は，ミュージアムを統括かつ代表し，運営委員会の委員長を兼ねる。

2　館長は，学部長会議の議を経て総長が任命する。

3　館長は，当該年度の事業の経過及び次年度の事業計画を常務理事会において総長に報告し，その承認を得なければならない。事業計画を変更した場合も同様とする。

4　副館長は館長を補佐しミュージアムの運営にあたるとともに，運営委員会の副委員長を兼ねる。

5　副館長は，館長が本学専任教員の中から推薦し，総長が任命する。

6　館長及び副館長の任期は２年とする。ただし，再任を妨げず，任期中に退任した場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（専任所員）

第６条　専任所員は運営委員会において選考し，総長が任命する。

2　専任所員は，ミュージアムの事業計画に基づき，調査･研究，法政大学における自校教育，その他ミュージアムの業務に従事する。

3　専任所員の待遇等については，「HOSEI ミュージアム専任所員及び任期付専任所員に関する細則」に定める。

(任期付専任所員)

第７条　任期付専任所員は運営委員会において選考し，総長が任命する。

2　任期付専任所員は，ミュージアムの事業計画に基づき，調査・研究，法政大学における自校教育,その他ミュージアムの業務に従事する。

3　任期付専任所員の待遇等については，「HOSEI ミュージアム専任所員及び任期付専任所員に関する細則」に定める。

(兼担所員)

第８条　兼担所員は，運営委員会において，本学専任教員でミュージアムの事業と密接に関係ある者の中から選考し，当該教員の所属する教授会又は当該教員の所属する研究所運営委員会の議を経て総長が委嘱する。

2　兼担所員の任期は２年とする。ただし，再任を妨げない。

3　兼担所員は，ミュージアムの事業計画に基づき，調査・研究，その他ミュージアムの業務に従事する。

(専門嘱託)

第９条　専門嘱託は，ミュージアム業務に関する専門的知識，資格，キャリア等を有する者の中から選考し，採用する。

2　専門嘱託は，ミュージアム資料の収集，整理，保管，展示及び調査研究活動の補助等の業務を行う 。

(学芸員資格の有資格者)

第 10 条　専任所員，任期付専任所員及び専門嘱託の内，1 名以上は学芸員資格の有資格者を置かなければならない。

2　学芸員資格の有資格者については，ミュージアム資料の収集，整理，保管，展示及び調査研究活動その他これらに関連する学芸員業務を行う 。

(運営委員会)

第 11 条　ミュージアムの運営を審議するために運営委員会を置く。

2　委員の構成は次の各号のとおりとする。

(1) 館長

(2) 副館長

(3) 専任所員

(4) 任期付専任所員

(5) 兼担所員のうち若干名

(6) 学部長会議が選任する者若干名

(7) 学校長会議が選任する者 1 名

(8) 研究所専任所員若干名

(9) 大学史委員会委員若干名

(10) 資格課程委員会委員若干名

(11) 図書館長

(12) その他委員長の指名により選出されたもの

3　運営委員の任期は，次の各号のとおりとする。

(1) 前項第 5 号から第 10 号及び第 12 号の委員の任期は 1 年とする。ただし，再任を妨げない。

(2) 委員が任期の途中で退任又は交代した場合，後任者の任期は残任期間とする。

4　運営委員会が必要と認めるときは，運営委

員以外の者を運営委員会に出席させて意見を聴取することができる。
5　運営委員会は委員長が招集する。
6　委員長は副委員長に議長の職務を代行させることができる。
7　運営委員会は次の事項を審議する。
(1) ミュージアムの管理，運営に関すること。
(2) 事業計画，調査・研究に関すること。
(3) 予算・決算に関すること。
(4) 所員の人事に関すること。
(5) その他ミュージアムの重要事項に関すること。
8　運営委員会で議決を要する事項については，構成員の３分の２以上の出席を要し，出席者の過半数の同意を得なければならない。ただし特に重要な事項についての決定は，出席者の３分の２以上の多数の賛成を得なければならない。
9　運営委員会は必要に応じて，特定の問題について審議するため，小委員会を設けることができる。
(所員会議)
第 12 条　ミュージアム業務の円滑な実施をはかるため，所員会議を置く。
2　所員会議は副館長が招集し，副館長，専任所員，任期付専任所員，専門嘱託，その他副館長が出席を求める者をもって構成する。
3　所員会議の議長は副館長とする。
(資料の閲覧)
第 13 条　ミュージアムの図書・資料の利用に関するガイドラインは，別に定める。
(事務担当部局)
第 14 条　ミュージアムの事務はミュージアム事務室が分掌する。
(規程の改廃)
第 15 条　この規程の改廃は，運営委員会の議を経て，職務権限規程に基づき行うものとする。
付　則
1　本規程は，2020 年 4 月 1 日から施行する。
2　本規程は，2021 年 4 月 1 日から一部改正し施行する。
(追 54)

法政大学史委員会規程

規定第 1109 号
一部改正　2020 年 4 月 1 日
一部改正　2020 年 12 月 25 日

(目的)
第 1 条　この規程は，本法人の歴史（以下「大学史」という。）に関する調査及び研究を行い，もって本学の発展に資する法政大学史委員会（以下「委員会」という。）について定める。
(事業)
第 2 条　委員会は，前条の目的を達成するため，次の事業を行う。
(1) 大学史に関する研究活動及び学内外の関連する研究活動との連携
(2) 大学史に関する資料集の編集
(3) 大学史関連資料（電子資料・映像資料を含む。）の調査並びに HOSEI ミュージアムにおける大学史関連資料の収集，整理，保存への提言及び助言
(4) 大学史に関連する事業に関する総長の諮問への対応
(5) 大学史に関連する自校教育等教育活動への協力

(6) 研究会，シンポジウムの開催等，大学史に関する調査及び研究活動の成果公開並びに公表

(委員会の構成)

第３条　委員会は，本学の専任教員４名以上７名以内で構成し，職務権限規程に基づき委嘱する。

(委員長)

第４条　委員長は,委員の互選により決定する。

2　委員長は，必要に応じて委員会を招集し，その議事を司る。

(副委員長)

第５条　副委員長は，委員の中から委員長が指名する。

2　副委員長は委員長を補佐し，委員長に事故あるとき，又は委員長が欠けたときは，その職務を代理又は代行する。

(委員の任期)

第６条　委員の任期は２年とする。ただし，再任を妨げない。なお，欠員により補充選任された者の任期は,その前任者の残任期間とする。

(定足数及び議決)

第７条　委員会は，委員の過半数の出席をもって成立し，議事は出席委員の３分の２以上の同意をもって決する。

(専門調査員)

第８条　委員会の下に資料の調査，収集等のため，専門調査員をおくことができる。

2　専門調査員は，委員会の議を経て委員長が選出し，職務権限規程に基づき委嘱する。

(小委員会)

第９条　事業内容により委員会の下に小委員会を置くことができる。

2　小委員会の設置は，委員会の議を経ることとする。

3　小委員会の構成は，委員会の議を経て委員長が教職員の中から選任する。

4　小委員会の委員長は，委員会の議を経て委員長が任命する。

(事務局)

第 10 条　委員会の事務局は，HOSEI ミュージアム事務室に置く。

(規程の改廃)

第 11 条　この規程の改廃は，委員会の議を経て職務権限規程に基づき行う。

付　則

1　この規程は,2012 年６月６日から施行する。

2　この規程は，2020 年４月１日から一部改正し施行する。

3　この規程は，2020 年 12 月 25 日から一部を改正し施行する。

(追 54)

2022 年度の活動計画

1．展示企画

本ミュージアムにおいて、2022 年度に開催を予定している展示企画は以下の通りである。

（1）特別展示

野上記念法政大学能楽研究所開所 70 周年記念企画

「社会の変革期や危機と能楽」

会期:2022 年 9 月 1 日～ 2023 年 1 月 31 日予定（一部会場は 9 月 30 日、10 月 19 日に終了予定）

会場：HOSEI ミュージアム ミュージアム・コア：2023 年 1 月 31 日終了予定

ミュージアム・サテライト市ケ谷（BT・外濠）：2022 年 10 月 19 日終了予定

ボアソナード・タワー 14 階博物館展示室：2022 年 9 月 30 日終了予定

＊シンポジウムを併催予定。

（2）テーマ展示

①テーマ：「市民」と「地域」への視点

沖縄返還 50 周年、沖縄文化研究所開所 50 周年記念企画

「沖縄を知り、考える－法政大学沖縄文化研究所創立 50 周年記念展示」（仮）

会期：2022 年 5 月 13 日～ 8 月 26 日

会場：HOSEI ミュージアム ミュージアム・コア、ミュージアム・サテライト市ケ谷（BT）、ミュージアム・サテライト市ケ谷（外濠）

②テーマ：対話する「伝統」と「現代」

野上記念法政大学能楽研究所 70 周年記念企画（国際共同研究の成果を展示）

会期：2023 年 2 月～ 2023 年 4 月末予定

会場：HOSEI ミュージアム ミュージアム・コア

＊シンポジウムを併催予定。

2．デジタルアーカイブ

2022 年度に資料のデジタル化を行い、本ミュージアムデジタル・アーカイブにおいて公開を予定している資料は以下の通りである（2023 年 2 月公開予定）。

（1）HOSEI ミュージアム所蔵戦前期卒業アルバム等

（2）法政大学図書館所蔵　梅謙次郎資料（答問録、講義ノート類）

（3）法政大学図書館所蔵　梅謙次郎資料（文書目録　第 4 部門　その他）

（4）特別展示・テーマ展示関係資料

なお、本ミュージアムデジタル・アーカイブと本学学術機関リポジトリとの関係性や役割分担の整理を目的に、図書館側とミュージアム側で検討を開始する。

3. ミュージアム・サテライト

2020 年度のミュージアム・コアの開館を皮切りに、2021 年度、法政大学 2 キャンパス（市ケ谷・小金井）にミュージアム・サテライトが設置された。2022 年度以降には、サテライト多摩の設置を計画している。サテライト多摩については、多摩キャンパスで進められている将来計画との一体性をもって、開設に向けた検討を進める。

4. 収蔵庫

収蔵庫については、2023 年度以降の設置に向けて検討を行う。

5. 紀要

『HOSEI ミュージアム紀要』は毎年 3 月に刊行を予定しており、第 3 号は 2023 年 3 月に発刊される。

6. オンラインコンテンツの充実（動画の制作・配信）

法政大学の歴史と個性を伝える映像コンテンツの制作を開始し、オンライン上で配信する。2022 ～ 2025 年度の間に年 3 本程度の動画を作成する予定である。